
Fate / Zero EXTRA 転生者と不可思議な従者達の夜

隻原 伽藍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F a t e / Z e r o E X T R A 転生者と不可思議な従者達の夜

【Nコード】

N 1 5 3 6 Z

【作者名】

隻原 伽藍

【あらすじ】

ある日、私は死んだ。

でも、神様（??）みたいな人に転生させられて、f a t eの世界に落ちちゃった……これから……どうしようかな……

サーヴァント・ガーディアンの 設定(前書き)

これは最新まで読んでからの方がいいかも。

サーヴァント・ガーディアンの設定

クラス： ガーディアン（守護者）

マスター： 悠薙 紅

真名： ????

性別： 少女

身長： 152cm

体重： 30kg

好きなモノ： 悠薙 紅、

嫌いなモノ： 敗北、守りきれなかった者、遠坂 凛

特技・趣味： 料理

属性： 守護・中立

能力

筋力： A

耐久： EX

敏捷： A +

魔力： A +

幸運： E

宝具： ??

クラス能力

守護者の資格 【A】

誰かがピンチの時、駆けつけ守り切ることができる能力。Aだと数百人規模を確実に守り切れる。

保有能力

適性強化・霊 【】

他の英霊に能力、クラス、外見、宝具等をあわせる。このスキルに他の例がないことからこのスキルは計測不能。

?????

?????

詳細

?????

宝貝

? ? ? ?
? ? ? ?
? ? ? ?
? ? ? ?

サーヴァント・ガーディアンの 設定（後書き）

新年早々の投稿w w

まあ…予約だけど。

この節は何回も書き換えていくので現在のガーディアンの状況といつてもいいでしょう

マスターの設定

マスターの設定

名前：

悠羅 紅

身長：

182cm

体重：

67kg

性格：

穏やかで優しい（甘いとも言う）。だか所々棘があり、冷徹で機械的な二面性を持つ。

特技・趣味：

特技：射撃・剣術

趣味：礼装作り（何故かたまに宝具と同クラスのモノを作る。）
料理

好きなモノ：

平和、戦争、努力、ただの何でもない人々

嫌いなモノ：

正義、悪、正義の味方、聖杯、英雄

魔術回路：46本

魔術特性： 全ての複製、行使、使役

武器：

???????

???????

???????

???????

F a t e / E X T R A 開幕の鐘は鳴る(前書き)

タイトルの語呂が悪い……………

(´・・・・´)

仕方ないか。無理矢理入れたんだし。

Fate / EXTRA 開幕の鐘は鳴る

ある日、事故にあった。

その世界から、私『悠羅 紅』の存在が消えた。

目をあける。不思議な世界だ。

「Hello Hello Hello<ハロハロ>?聞こえていますか?」

ふざけた声が聞こえる。

「オホンっ。貴方!別世界に転生してみたくないですか?」

「……………ふざけているのか?」

「いえいえ、マジですよマジ!貴方の趣向からいくと……………ふむ、Fateの世界なんてどうでしょう?」

「……………お願いします!!」

「能力とかはどうします?」

知っているモノをコピーするの魔術回路かな!。身体能力は普通より少し上で、多重契約権も。

「OK」。ではでは、さようなら」

という声と共に俺の意識は薄れていった。

空は焼けている

家が溶けている

人は潰れている

路は途絶えている

これが戦いの源泉
これが再起の原風景

ここで私はただ一人生き延びた

思い出すな／忘れるな

忘却は至高の救いであり、最悪の罪である

忘れるな

地獄から私は生まれた

これは忌まわしい夢

何処かであつた

何処にでもあつた

そして此処に起きた、幼年期の記憶である

多くの血が流れ、響き渡る怨嗟の声を聞いた

命は消える。思いのほかあっさり

と肉親も友人も、名前も知らない隣人も他愛なく

銃を持った兵士も、生き延びようとすする家族も、

最後まで醜くも逞しくあがき、臨終の間際、穏やかな面持ちで呼吸を止めた

それがどうしても承伏できなかつた。

何故、という疑問が消えなかつた。

紛争と天災の違いはあれ、なぜこのような悲劇が起きるのか
なぜ誰をも救う事が出来ないのか

いや、そもそも
なぜ世界はこの地獄を許すのか

カタチあるもの、生あるものは、一人を残して消え去った。

無力感と絶望の中、意識は薄れていく
胸にあるのは疑問と怒りと

多くの人間の、人生の、時間の痕跡が、跡形もなく消え去った。

その犠牲を見て、死の淵でなお頭をあげた
認めない、と

もしもう一度まだ命を与えられるのなら今度は、今度こそは、決して

忘れるな

地獄から私は生まれた

その意味を

どうか忘れないでくれ

・・・

・・・

.....

どうやら、欠けた夢を見ていたようだ。ソコはいつもの風景。いつもの行事。

.....のはずだが、この世界は何かおかしい。

校門にたつ黒い学生服.....確か生徒会長だ。が誰もいない
虚空に向かって高らかに独り言を言っている。
明らかな異常に気付かない他の生徒。

そして、最近起こっている生徒の消失。

ノイズにまみれた視界。

ココは決して自分の知る学校ではない！

バチツという音と共に風景が変わる。

「な、なんだ!？」

あまりの唐突な出来事に驚く。

「む、リストにない者が.....試すか」

と、声が聞こえた。

振り向くと、黒い格好をした（新任のクズキ先生だと記憶している。）
人が立っていた。

だが、回りに漂う雰囲気は教師のそれではなく暗殺者のモノだと.....

ここで思考が遮断された。
なぜなら、正体不明の衝撃が走ったからだ。

バタリ、と倒れ混む。

「カカツ 他愛のないものだ・・・」
と、聞こえたが何がしゃべったかすらわからない。

横を見ると霞んだ視界に土色の塊がいくつも浮かび上がった。

いや、今になって見えただけで元からそこにあったのかもしれない。

それは、幾重にも重なり果てた月海原学園の生徒達だった

そして自分もその仲間入りするだろう・・・

いや。このまま終わりにするのは許されない！

(いずれ膝を屈する時が来るとしても、今ここで諦めるのは間違っている・・・気がするのだ。)

立たないと・・・

(からだの感覚が、薄れている。全身を駆け巡る痛みはとうに許容外の蓄積。死後の拷問、地獄の責め苦をイメージさせる。)

怖いままでいい

(・・・それでも、私『自分/貴方』は、立ち上がらないと。それは自分でも理解できない衝動だった死ぬのが怖いのではないむ

しろ、楽になりたがっている。）

痛いままでいい

（……………そうか。理由はきつとそれだけだ。

多くの死体と問いかけがあった）

その上でもう一度考えないと

（なら……………分からない、で済ませてはいけない。）

……………だってこの手はまだ一度も自分の意思で戦ってすらい
ないんだから！！

（自分は心を持って目覚めたなら。

分からないまま終わるのだけは命あるかぎり許されない！）

『……………ほう。その強い疑問、聖杯の代行者として聞き逃せ
ないな。

君は死に瀕しながら己が生に疑問を抱き、死に飲まれながら自らの
不明を恥じた。

宜しい。その心の在り方に期待しよう。』

ガラスの割れる音が響き、共に部屋の明かりがともった。

そして、自分の目の前に白い服を着た少女が立っていた。

外見はほとんど普通の人間と変わらない。だが、違う。明らかに。

「……………貴方が私を呼んだの？」

と、キヨロキヨロしながら聞かれた。

「え……君は……？」

と、思わず聞き返した。

「ううん、大丈夫。とまどうのも無理はないわ。それでも、私のマスターってことにはかわりないもの。」

と、少女は言った。

「……何故呼び出せた？」

そう、問うのは先程なすすべもなく……いや、何をされたかも分らず倒された、クズキだった。

「アサシン、排除しろ。」

冷淡にいい放つ。

「カカツ どこを壊せばよいのやら……」

そう言って現れたのは、目の前の少女と同じような存在だった。

そして、アサシンと呼ばれた者が前に出ようと力を溜める。……

……が

『予選終了です。突破できなかった者は削除します。』

と、いうアナウンスと壁により阻まれた。

「マスター、これから聖杯戦争のはじまりよ。私には……って聞いている？」

と、少女が心配そうに声をかけている。だが、俺の意識は次第に遠くなっていた。

9
9
9
人
1
2
8
人

Fate / EXTRA 開幕の鐘は鳴る（後書き）

紅

「主人公の性別が一番迷ったかもしれないって作者がいつてたぞ。何でだろうな……？」

サーヴァント

「さあ？私にも理解できないよ。在るとすればなぜ私達がこの『後書き』に出ているかだけだと思っよ……」

紅

「じゃあ、何でこの『後書き』に出ているんだ？」

サーヴァント

「決まってるでしょ？作者の気まぐれよ……まあ無事に切り抜けられましたけどマスターは本当に災難な人生ですねえ……」

紅

「うるせ。まあ、無事に終われてよかったよ。え〜っと……読者さんこんな馬鹿な作者ですが、どうぞよろしく！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1536z/>

Fate / Zero EXTRA 転生者と不可思議な従者達の夜

2011年12月28日00時47分発行